



会社概要

Company Profile

■ 会社概要

(2016年7月1日現在)

商 号 株式会社FRONTEO (FRONTEO, Inc.)
 設 立 2003年8月8日
 資 本 金 1,705,931 千円 (2016年3月31日現在)
 所 在 地 〒108-0075 東京都港区港南二丁目12番23号
 連 絡 先 TEL : 03-5463-6344 (代表)
 FAX : 03-5463-6345
 従業員数 423人 [連結] (2016年3月31日現在)

従業員数 423人 [連結] (2016年3月31日現在)

■ 役員

(2016年7月1日現在)

代表取締役社長	守本 正宏
取締役副社長	池上 成朝
取締役	武田 秀樹
取締役 ※1	舟橋 信
取締役 ※1	桐澤 寛興
常勤監査役 ※2	須藤 邦博
監査役 ※2	安本 隆晴
監査役 ※2	大久保 圭
※1 社外取締役 ※2 社外監査役	

※1 社外取締役 ※2 社外監査役

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
基準日 3月31日
そのほか必要がある場合は、あらかじめ公示いたします。
単元株式数 100株
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同 連 絡 先 〒137-0801 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
公 告 方 法 電子公告の方法により行います。ただし、事故その他や
を得ない事由によって電子公告による公告をすることが
できない場合は日本経済新聞に掲載して行います。
(公告掲載 URL) <http://www.fronteo.com>

●株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

●特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

郵打全國古文居にても取次でいたしより。

株式の状況

Stock Information

■ 株式の状況

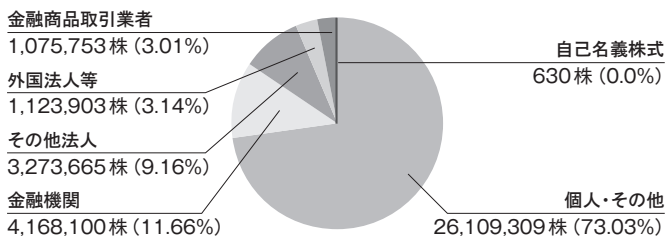
(2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	72,000,000株
発行済株式の総数	35,751,360株
株主数	16,219名

株主数 16,219名

■ 所有者別株式分布状況

(2016年3月31日現在)



■ 大株主

(2016年3月31日現在)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
守本 正宏	6,920,400	19.35
株式会社フォーカスシステムズ 代表取締役社長 森 啓一	2,984,720	8.34
池上 成朝	2,730,800	7.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) 取締役社長 桑名 康夫	2,093,400	5.85
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) 取締役社長 和地 薫	1,330,400	3.72
林 純一	547,300	1.53
資産管理サービス信託銀行株式会社 (有価証券信託3口) 代表取締役社長 森脇 朗	545,900	1.52
神林 忠弘	429,800	1.20
原 康	199,500	0.55
松井証券株式会社 代表取締役社長 松井 道夫	187,700	0.52

※持株比率は自己株式(630株)を控除して計算しております。

株式会社FRONTEO

〒108-0075 東京都港区港南二丁目12番23号
TEL:03-5463-6344 (代表) FAX:03-5463-6345

FRONTEO 検索

<http://www.fronteo.com>



FRONTEO

第13期 株主通信

2015年4月1日から2016年3月31日まで

株式会社FRONTEO

証券コード:2158

株式会社FRONTEOとして
真の「人と社会にとっての未来の創造」を
始めます

株式会社FRONTEO 代表取締役社長 守本 正宏



社長メッセージ

人工知能「KIBIT（キビット）」を軸に新たなスタートを切る

2016年7月、当社は株式会社FRONTEOとして新たなスタートを切りました。2003年の創業以来、私たちは「日本企業の誇りを守りたい」との思いからリーガル分野で企業を支援するデータ解析技術を開発し、その技術を独自の人工知能「KIBIT(キビット)」へと発展させてきました。そして現在KIBITは、人間の微妙な心の動きを理解し、“暗黙知”を含めた専門家の判断の仕組みを学習するまでに成長しました。これによりKIBITの汎用性は飛躍的に高まり、リーガルの枠を越えた幅広い分野で課題解決に貢献できると考えています。今後はKIBITを前面に押し出した新規事業の製品化に注力し、さまざまなアプローチでソリューションを提供してまいります。リーガルビジネスから人工知能を核としたビジネスへと果てしなく広がる当社の可能性をお示ししたい。今回の商号変更は、私たちのこうした思いを込めたものです。

KIBITを搭載する製品は、「PATENT EXPLORER」「AI 助太刀侍」「EMAIL AUDITOR」等のソフトウェアに加え、コミュニケーションロボット「Kibiro(キビロ)」など、着実に広がっています。Kibiroは馴染みやすい名前の響きも相まってお客様には親しみをいただいております。また、独自技術の知的財産の保護にも戦略的に取り組んでおり、日米で人工知能関連技術の特許を取得しています。日

本ではテキストから感情を抽出する技術についても特許を取得しました。KIBITをKibiroに搭載することでB to C分野への展開が可能になったこともあり、当社では5年以内をめどに、新規事業を売上高ベースでリーガル事業と同程度にまで成長させたいと考えています。

FRONTEOの原点—リーガル事業

一方、私たちの原点であるリーガル事業についても、引き続き積極的な取り組みを続けてまいります。当期前半には、米国のエヴォルヴ・ディスカバリー社(以下、EvD社)を買収し、米国の東西地域をカバーする販売体制を強化するためにオペレーションの統合に注力しました。その結果、EvD社、旧UBIC North America, Inc.、テックロー・ソリューションズ社の米国子会社3社を、FRONTEO USA, Inc.、FRONTEO Government Services, Inc.の2社に統合再編いたしました。当社の営業力の最大化を目的とした、効率的な体制づくりの一環です。今後も、米国における販売力とアジア言語対応を可能にする独自技術を強みとし、市場シェアの拡大を図ってまいります。

KIBITの真価を発揮できる分野へ

当社は、「ヘルスケア」、「デジタルマーケティング」、「ビジネスインテリジェンス」の3事業を、KIBITが最も真価を発揮する新事業と位置づけました。特に、KIBIT搭載の医療用ソフトウェアの製品化(ヘルスケア事業)と、コミュニケーションロボット「Kibiro」の普及促進(デ

FRONTEO グループ



KIBI : 人間の微妙な心の動きを意味する日本語の「機微」
BIT : 人間の情報量の最小単位を意味する「ビット」

KIBITを核としたFRONTEOの事業

リーガル

創業以来、米国市場で訴訟という壁に立ち向かうアジアと日本の企業を支援

ヘルスケア

病院内のカルテ情報の活用から創業、臨床試験の効率化まで幅広く展開

デジタルマーケティング

ますます拡大するECマーケットにおいて、消費者ニーズを人工知能で掴む

ビジネスインテリジェンス

ビジネスインテリジェンスを活用して、企業の業務効率化から経営判断までを支援

デジタルマーケティング事業)については、2016年度の重点事項として精力的に取り組めます。「Lit i View PATENT EXPLORER」の販売開始により軌道に乗ったビジネスインテリジェンス事業に続き、この2つの事業を全力で推進することにより、「FRONTEO」ブランドの浸透を図ることができると考えています。

ヘルスケア事業では、「未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業」を国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)から受託し、多数の企業と慶應義塾大学の協力のもと、診療時の精神状態を客観的に評価するデバイスの開発に取り組んでいます。また、NTT東日本関東病院の監修のもとで、電子カルテの記載から入院患者の転倒・転落を予測するシステムの開発にも取り組んでいます。医療機器メーカーと看護分野を中心に多数の医療関係者から注目を集めています。

デジタルマーケティング事業では、ヴイストン株式会社の協力を得て、コミュニケーションロボット「Kibiro」の開発を進めており、2016年後半に一般家庭向けの提供を開始する予定です。Kibiroは、次世代の人工知能ロボットとしてキャノンマーケティングジャパン株式会社のショールームでコンシェルジュとして導入され、テレビ番組でも取り上げられるなど、着実に一般の認知度が向上しています。

こうした取り組みは、人間の機微を理解する人工知能KIBITが持つ可能性を最大限に引き出し、社会における「判断のパラダイム」に大きな変化をもたらすものです。当社は、3つの新事業をとおして、「人工知能が人間を理解し、すぐそばで人間をサポートしてくれる」社会の早期実現を目指します。

株主の皆さまへ

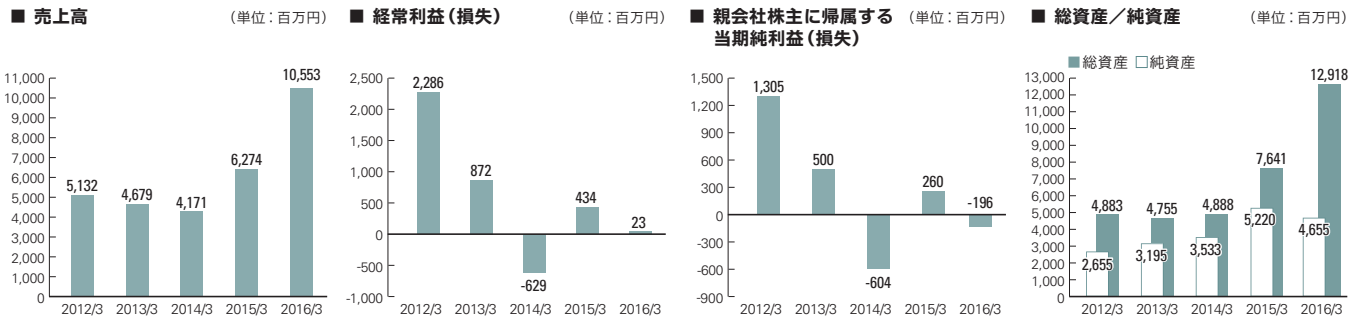
当社では、今後も情報社会の課題を解決してより良い未来の実現に貢献すると同時に、KIBITを核に事業分野を拡大し、収益化につなげていきます。そして、日本発の人工知能を世界のスタンダードに育て上げたいと考えています。今回、商号は変わりましたが、創業時の精神はいささかも揺らぐものではありません。私たちが当社の技術に誇りを持つように、皆さまに株主であることを誇りに思っていただけの企業へと、私たちは成長を続けます。

なお、2016年3月期の決算短信発表後、有価証券報告書を作成する過程で決算の一部につき修正すべき事項が判明しました。リーガル事業の営業力強化の一環として当期前半に買収した米国のEvD社に対し、今回初めて上場企業と同水準の基準で会計監査を実施したところ、2016年3月期の売上高の一部について必要な資料が十分に整っておらず、収益と認識できないとの判断に至ったものです。この度収益と認識できなかった部分に関しては、今後順次収益として認識していく見込みです。今後当社は、監査法人との協議等をふまえ、EvD社の収益認識プロセスの改善と内部統制の整備・運用を徹底していく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご理解・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

2016年7月

連結財務ハイライト



新社名で新たなスタートを切る

株式会社FRONTEOは
人と先端科学の未来に向かい、輝ける価値創造企業であり続けます。

新称号の意味 | Corporate Brand

FRONTEO

・新社名は企業理念を象徴するフィロソフィ・ブランド
・Front(英) 最先端 + eo(ラ) 前へ進む
・Frontier Technology Organizationのアプリビエーション(略語)
「進歩的かつ先端的な価値創造集団」の意

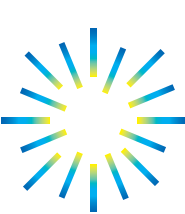
企業理念 | FRONTEO Mission

Bright Value Creator

人と先端科学の未来に向かう、輝ける価値創造者

Bright Idea	理念・発想	理念ある発想が 人の存在意義をより輝かせ、 先端技術とビジネスの創出を続け、 あらゆる分野での広汎なサービス化が 時代の先をつくる文化づくりを際立たせる
Bright Humanity	人間存立	
Bright Technology	テクノロジー	
Bright Business	ビジネス	
Bright Service	サービス	
Bright Culture	文化	

Bright Symbol



・人と先端科学の未来に大きな輝きをもたらす
・放射状に広がる多様な軸線が、人工知能(AI)を核とする企業と事業の広がり可能性を示す
・求心力と遠心力を合わせ持ち、多様性と強いパワーを象徴
・Brightをシンボライズした視覚言語(意味訴求であると同時に感覚訴求でもある)
・ブルーの濃淡を持つ軸線の内側への延長にイエローを配し、輝きの視覚効果(錯視)を活用した個性的な色彩造形

行動指針 | FRONTEO Motto

Take The Initiative

「常に積極的に先進先鋭」をこそ目指す

Passion	熱意
Perseverance	執念
Emotion	感動
・モットー(行動指針)を象徴的に支えるのが、熱意／執念／感動の3つの方針軸 ・社員姿勢として、3つのキーワードをたゆまず体質化し実践する ・FRONTEOは、常にCreator(創造者)であると同時にInitiator(創始者)でありたい	

Bright Idea

ブライトアイデアとは
優れた「理念」を志向するという意味と
常に新しい「発想」を生み出し続ける経営、
その二つの意味を原点とする企業存立の
姿勢を明示

Bright Humanity

人間第一のビジネス成果こそ
本来あるべき姿である
また、CSV(Creating Shared Value)を
実践し続ける人間企業経営を目指す



BRIGHT VALUE CREATOR

人と先端科学の未来に向かう、
輝ける価値創造者

Bright Business

先進技術を活かした価値創造型
事業成果が輝き続ける事業を生み
組織体としての企業と人を育てる

Bright Culture

究極の価値としての文化形成で
歴史を築いていく主要な成果目標
古来、人類の歴史の中で
文化と評価されたものこそ価値ある
資産として時代を超え輝き続ける

Bright Service

あらゆる企業はサービス業化していく
と言われるが
この基本目標無くして輝ける
企業存在はない

Bright Technology

これからの人間社会において
当面AIを超える革新的技術は無い
同時にAIと無縁で栄える企業や事業もありえない

《リーガル事業》

リーガル事業早わかり

米国で戦う日本・アジアの企業の課題をKIBITが解決

米国民事訴訟制度には、訴訟における実際の審理前に原告と被告がお互いに証拠を出し合い争点の整理を行うディスカバリという証拠開示手続きがあります。このディスカバリの巧拙が訴訟の結果に重大な影響を及ぼします。膨大で複雑な情報処理を必要とするディスカバリには情報処理技術が必須であるため、この作業を専門で請け負うディスカバリベンダが必要です。

米国の法制度を熟知してアジア(日本)企業側に立つ
ソリューション・サービスを提供する「パートナーの不在」

課題① 膨大な費用

ディスカバリベンダの多くが自社ソリューションを持たず、他社製のソフトウェアでeディスカバリを行うためコスト競争がなくサービスも画一的。

課題② アジア言語の壁

多くのディスカバリベンダはアジア言語に十分対応できず、証拠となる文章の翻訳に膨大な時間と費用がかかる。

課題③ セキュリティ面でリスク

証拠となる情報を海外のサーバーに保管する必要から、情報セキュリティ面で大きなリスクがある。

日本をはじめとするアジア企業は米国訴訟に対する知識や経験が圧倒的に不足しているため、ディスカバリベンダを選定する上では不利な立場にあります。FRONTEOは、アジア唯一のディスカバリベンダとして、スピードとコストパフォーマンスに優れたKIBITで法律家の“暗黙知”を提供することにより、アジアの企業を支援しています。



パートナーとしてアジア企業を支援

強み① 独自技術でコスト削減

独自に開発した人工知能KIBITを用いることから、高度な技術で効率的なレビューを実現し、所要時間も大幅に短縮。

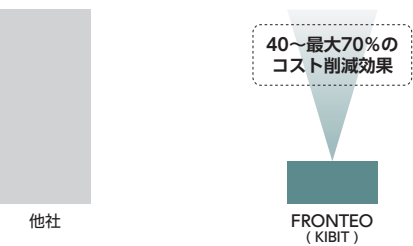
強み② テクノロジー

KIBITは、日本語、中国語、韓国語、英語など複数の言語に対応。文字化け、検索誤ヒット、処理速度の遅さなどのアジア言語特有の問題を解決するeディスカバリを提供。

強み③ ワンストップソリューション

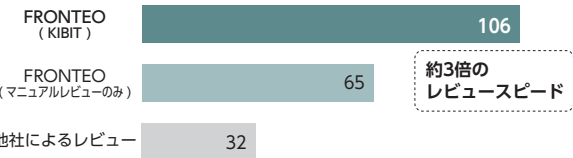
日本唯一であり米国でも大手数社にしか存在しない、ディスカバリのワンストップサービスを実現。全ての工程が顧客企業の自国内で完結するため、セキュリティ面のリスクが減少。

レビューコスト削減



レビュースピードの向上

1時間当たりの平均レビュードキュメント数



2016年3月期の取り組み

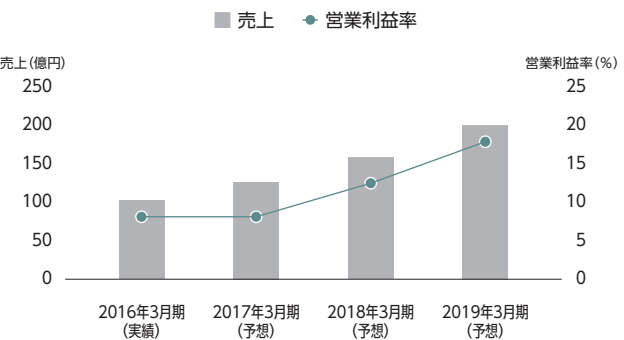
収益拡大を目指し、米国の体制を強化

当社は、当期前半にエヴォルヴ・ディスカバリー社(EvD社)を買収し、米国の東西地域をカバーする販売網を獲得。さらにはEvD社と既存の米国内の子会社(UBIC North America, Inc.)を統合してFRONTEO USA, Inc.を設立しました。これは、年率15%以上の成長が見込まれるディスカバリ市場での収益拡大を目指し、業務の効率化を図ったものです。また、EvD社のCEO、アンドリュー・F・ヒメネスをFRONTEOの執行役員に迎えたことにより、開発(日本)と販売(米国)のより緊密な連携が可能になりました。

成長イメージ

3年後、日本企業を中心にアジアを攻略
10年後にはグローバルNo.1を目指す

リーガル事業今後の見通し



《 デジタルマーケティング事業 》

始まります。KIBIT が身近にある暮らし

当社の人工知能KIBITを搭載したコミュニケーションロボット「Kibiro (キビロ)」は2016年前半に法人向けの提供が開始され、導入先でも好評を得ています。2016年後半には一般家庭向けの販売開始が予定されています。販売価格は本体が10万円前後、アプリケーション費用と保守費で月額数千円程度を想定しています。

Kibiroは利用者の顔を識別して内蔵のマイク、スピーカーで会話をするほか、ネットワークを介してKIBITとつながり、専用アプリやチャット、

SNSなどから利用者の行動や好み、感覚を蓄積。利用者も気づかなかった「好きなもの」をおすすめすることができます。これにより、デジタルマーケティングで最も期待される、「個別化提案」にぴったりのソリューションが実現するのです。一般家庭向けの販売をスタートするにあたり、この愛らしい外見や動作でKIBITの広報大使として親しまれることも期待されます。

Kibi+

リーガル

ヘルスケア

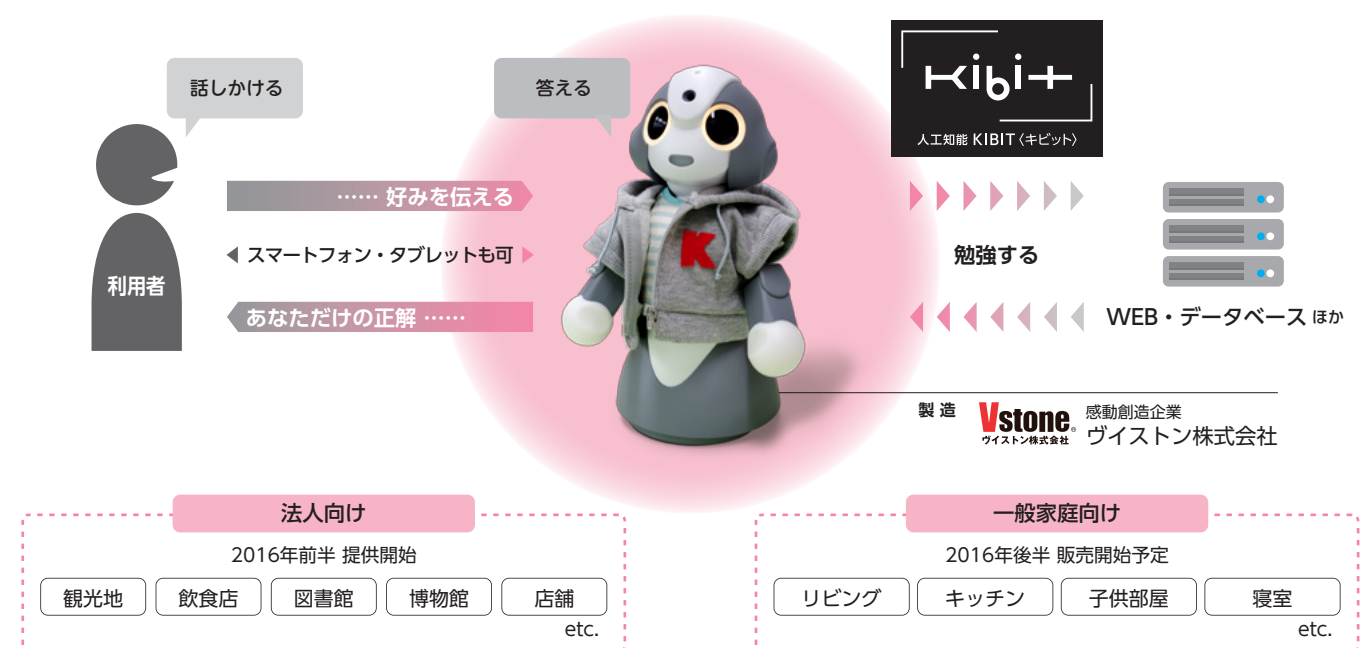
デジタル
マーケティング

ビジネス
インテリジェンス

ロボット事業

コミュニケーションロボット「Kibiro」がデビュー

毎日のコミュニケーションにより生み出される情報を収集し、あなただけの正解を探し出す

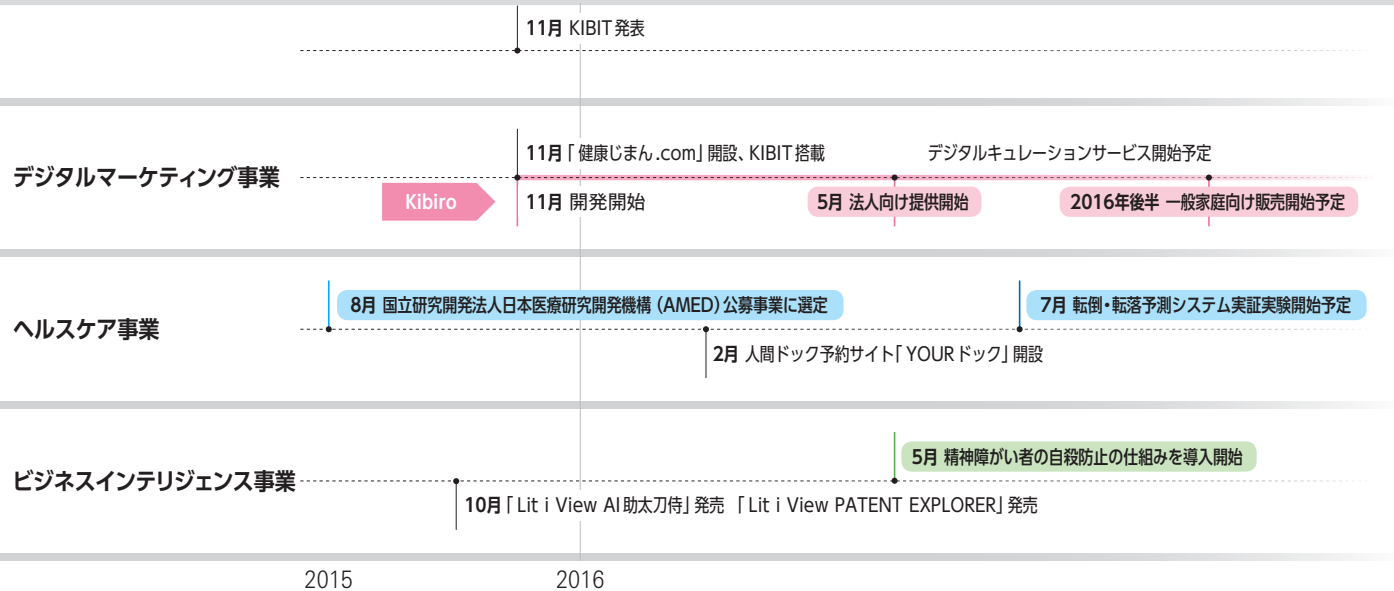


法人向け導入事例

2016年5月、「キャノンプラザS」(東京・品川)で来場者を迎えるKibiro。双方向のコミュニケーションを通して、キャノン製品への理解を深めてもらう。



3つの分野でプロジェクトが進行中



《 ヘルスケア事業 》

KIBIT を活用し医師や看護師の判断を支援

医療データ解析ソリューションに特化したFRONTEOヘルスケアでは、KIBITを活用し医師や看護師の判断を支援する、先進的な製品・ソリューションの開発に取り組んでいます。

院内環境改善支援

「転倒・転落予測システム」実証実験開始

熟練看護師の“暗黙知”を再現する

医療現場では改善すべき問題として注目されている入院患者の転倒・転落。当社では、そのリスクを低減する「転倒・転落予測システム」の提供実証実験を2016年7月ごろから開始します。このシステムは、電子カルテに記された看護師の自由記述からKIBITが患者さんの容体の変化を把握。医療現場での“暗黙知”を再現して転倒・転落のリスク

を察知します。危険回避だけでなく、医師や看護師は業務負担から解放され、本来の患者さんに寄り添う仕事に集中できるようにもなるでしょう。技術力で「世の中を明るく照らす」という創業時の精神を具現化したこのシステムは、収益面においても社会的意義においても、計り知れないポテンシャルを秘めています。



◀「院内環境改善支援サービス 転倒・転落予測システム」アプリケーションのイメージ

- ・入院患者の転倒・転落の予兆をスコア化
- ・正確に、素早くリスクを検知し、医療スタッフの業務を強力にサポート

※画像は開発中のものです

精神疾患支援

AMEDの公募事業に参画し「精神疾患症状評価システム」を構築

精神疾患の診断に貢献 さらに広がるヘルスケア分野での可能性～AMEDの公募事業に参画～

ヘルスケア事業におけるKIBIT 活用の一環として、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の公募事業を受託し参画中です。協働する7機関の中で当社は事業主体の立場で、人工知能を利用した精神疾患の診断支援という前例の少ないテーマに取り組んでいます。薬の投与と病状の改善の関係も客観的に評価するシステムの開発により、精神疾患の創薬にも貢献できる可能性があります。



共同実施機関

- 学校法人慶應義塾 ● 株式会社アドバンスト・メディア ● 株式会社FRONTEOヘルスケア
- 株式会社システムフレンド ● セムコ・テクノ株式会社 ● ソフトバンク株式会社 ● 日本マイクロソフト株式会社

《 ビジネスインテリジェンス事業 》

障がい者就労支援

自殺の予兆を早期発見する仕組みを構築

精神障がい者の就労をメンタルヘルスケアで支援



障がい者向けの就労支援などを展開する株式会社LITALICOとの協業により、当社では精神障がい者の自殺防止の仕組みを構築。2016年5月から導入が始まっています。この仕組みは、KIBITでLITALICO

の支援記録を分析し、自殺の可能性の高まりを早期発見するものです。精神障がい者の雇用義務化(2018年度)などに伴って注目を集める、精神障がい者のメンタルヘルスケアに役立つものと期待されています。